

福島大学附属図書館における 震災資料の収集

①

「被災地図書館との情報交換会」(於：神戸大学)報告資料

平成25年3月8日(金)
福島大学附属図書館
芦原ひろみ



報告内容

②

1. 東日本大震災後の状況
2. 図書館における収集内容
3. 学内の連携(FURE)
4. 課題

1. 東日本大震災後の状況

③

- 発災後、大学内に避難所が設置
→ 教職員や、多くのボランティア学生による運営
- 教員による、県内の復興・支援に関わる各種活動
- 比較的線量の高い「福島」での生活



学内の震災関係の活動の記録
福島で学ぶ学生が必要とする情報
震災後の生活に必要な情報
……を集中的に収集

2. 図書館における収集内容

④

- 収集内容
 - ① 市販されている震災・原発・ボランティア等に関する資料
 - ② 学内の活動の記録
 - ③ 寄贈資料
- 収集点数：2,100点以上(震災関連資料コーナー)
その他、チラシ類、講演要旨、ポスター、事務文書など

①市販されている資料

5

- 授業でとりあげられるテーマ／関心の高い分野
震災、原発、放射能、復興支援、被災者支援、ボランティア、再生可能エネルギー、災害 etc.
- 福島で生活していくなかで必要と思われる情報

震災後、2,000点近くを購入

②学内の活動の記録

6

- 教職員・学生が行った東日本大震災に関わる様々な活動の記録を収集
- 収集方法
各種会議や文書などによる依頼
ホームページでの寄贈依頼（後述）

現状としては、あまり収集が進んでいない

②学内の活動の記録：リポジトリ公開

7

- 学内で生成されている震災に関わる活動記録の公開

● 震災関係の資料を
幅広く収集・公開
できるように、
既存のリポジトリの
運用指針を改正



③その他寄贈資料

8

- 図書館のホームページに寄贈のお願い（学内外向け）
- 定例記者会見

寄贈資料約100点
（このサイトを開設する
以前から寄贈はあり）



震災関連資料コーナー（開架閲覧室1F）

⑨

- 関心が高く、他の蔵書に比べ利用頻度が高い
- 大学関係者だけでなく、一般の市民にも公開



図書・雑誌・視聴覚資料など2,000点以上を配置

3. 学内の連携(FURE)

⑩

FURE うつくしまふくしま未来支援センター
Fukushima Future Center for Regional Revitalization
<http://fure.net/fukushima-u.ac.jp/>

- 福島県の復旧・復興を支援することを目的に設立
- 復興に向けた調査研究に関する資料を収集
避難所や仮設住宅等の写真、航空写真、各種報告書、復興計画・除染計画、など
- 図書館との連携
 - ・ 震災アーカイブWG
コーディネーター(1名)・教員(1名)と、図書館の職員(4名)でWGを立ち上げ、資料収集・管理・活用の方針や相互の役割分担などについて検討中。〈月1回〉
 - ・ 図書館での震災関連資料購入費の支援

4. 課題

⑪

- 学内で生成されるコンテンツの収集／ノウハウの確立
- 収集したコンテンツの整理・保存・発信方法
- 図書館で扱いにくい収集物の保存・管理
- 人員・予算・場所の確保
- 県内他図書館との活動情報共有活性化